

福祉施設の希望する寄附の状況

平成28年度 東京善意銀行 物品・寄附等希望アンケート 集約結果

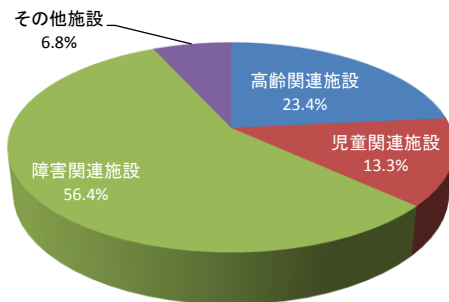
東京善意銀行の取り組み

- ▶東京善意銀行は、昭和39年(財団法人 東京善意協会として設立)から都民・企業・団体の皆さまからの「福祉の役にたちたい」とのお気持ちを、東京都内の福祉施設とその利用者に届ける橋渡しの役を務めています。昭和45年に財団法人 東京善意銀行と改称、平成17年に社会福祉法人 東京都社会福祉協議会(東社協)に事業を移管し、事業を継続しています。
- ▶都民・企業・団体の皆さまからいただいた寄附(現金・物品・招待)を、適正・公平に、また、福祉施設の希望にできるだけ沿えるよう、東京善意銀行では、毎年、福祉施設の希望する寄附等の現況把握と、必要としている物品等の把握のためのアンケートを行っています。また、寄附配分(助成)を、より効果的できめ細かく対応できるよう福祉施設へのヒアリング調査も実施しています。

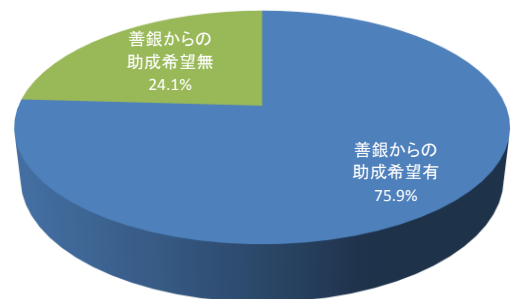
28年度の配分(助成)対象施設の状況・助成金配分の希望状況

- ▶配分(助成)対象の福祉施設は、全体で約2,300施設です。その施設種別内訳は、障害関連施設が56.4%、高齢関連施設が23.4%、児童関連施設が13.3%です。
- ▶善意銀行への現金による寄附は、福祉施設での必要な物品の購入費用として、善意銀行から助成金として配分していますが、全体の3/4(75.9%)がこの助成を希望しています。
- ▶助成金配分を希望する施設種別内訳は、高齢関連施設が81.6%、児童関連施設が78.8%、障害関連施設が75.6%です。

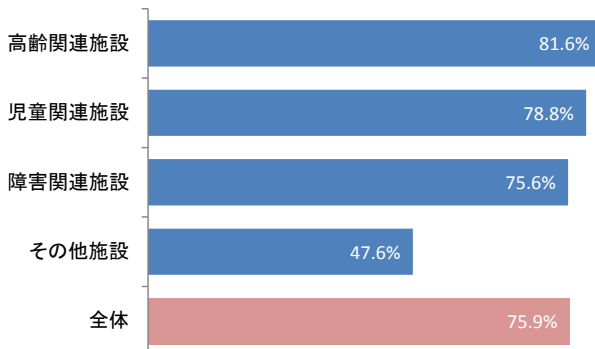
配分(助成)対象施設の内訳(平成28年度)



助成金配分の希望(平成28年度)



施設種別ごとの助成金配分の希望(配分希望施設のうち)



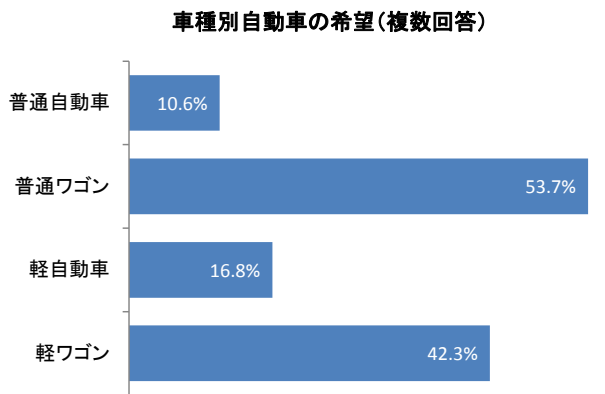
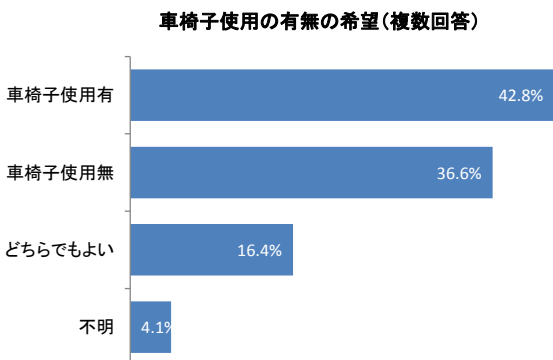
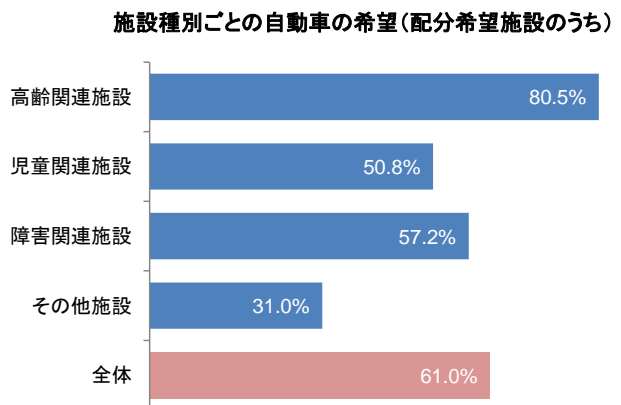
- ▶ 福祉施設の希望品は施設種別に関わらず、パソコンやテレビ等の家電製品の希望が多くあります。施設種別ごとの希望品の主な内容は右表のとおりです。
- ▶ 助成金の配分は、このアンケートの回答内容に基づき助成申請を募り、善意銀行の運営委員会で審査の上、助成決定を行っています(年3回程度)。
平成28年度は、これまでに2回の助成金配分をおこない、のべ112か所の福祉施設・団体に物品購入の助成金等として配分しました。

高齢関連施設	車いす(チルト式・リクライニング式)、介護ベッド、エアーマット等の介護用具や洗濯機、テレビ等の家電製品の希望が多い
児童関連施設	パソコン、遊具、白物家電の希望が多い。通所施設は知育玩具や絵本、乳児施設はベビー用品、テレビやDVDプレイヤー、ソファ等の家具を希望
障害関連施設	パソコン、タブレット端末等の希望が多い。その他、洗濯機や冷蔵庫等の家電製品、授産活動の品、音響機器、デジカメ等
その他の施設	家電製品等の希望が多い

物品・招待寄附の希望の状況

1 自動車の希望状況

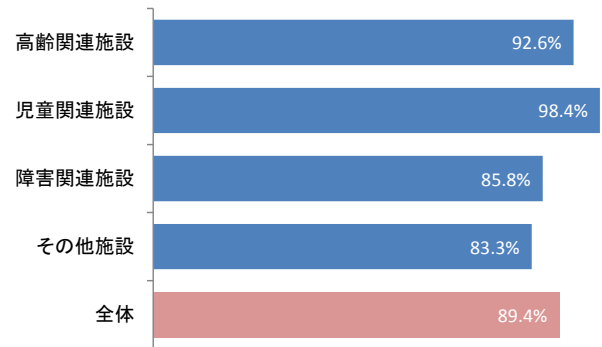
- ▶ 寄附配分を希望する福祉施設(回答施設)の約6割が自動車を希望しています。福祉施設の規模や事業内容によりますが、高齢関連施設では8割の施設で希望があります。
児童関連施設では知的障害児施設や児童養護施設等での希望が多く、障害関連施設では施設の状況により希望状況が異なります。
- ▶ 自動車を希望する福祉施設は、全体では普通自動車、軽自動車ともワゴンタイプの車種の希望が多くなっています。
- ▶ 車いす仕様の希望の有無では、ワゴンタイプの車種を希望する場合に、車いす仕様有の割合が高くなっています。



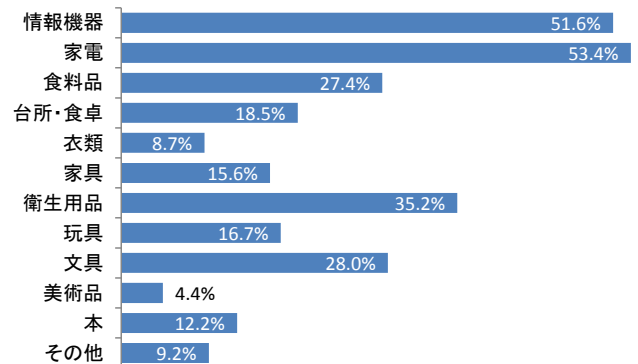
2 物品寄附の希望状況

- ▶ 寄附配分を希望する福祉施設(回答施設)のうち、約9割の施設が物品寄附を希望しています。特に、児童関連施設や高齢関連施設では、物品寄附の希望が高い傾向にあります。
- ▶ 物品の品目別では、全体では家電製品、情報機器(パソコン等)、衛生用品、文具、食料品の順で希望が多くなっています。
- ▶ 高齢関連施設では、希望物品の上位は、家電製品、情報機器(パソコン等)、衛生用品で、車いすや介護用品の希望もあります。
- ▶ 児童関連施設では、希望物品の上位は、家電製品、玩具、情報機器(パソコン等)です。衛生用品や文具等の希望も多くなっています。
- ▶ 障害関連施設では、授産活動等で用いるタブレット端末も含めた情報機器(パソコン等)が最も多く、家電製品、衛生用品の希望が上位品です。

施設種別ごとの物品寄附希望 (回答施設のうち)

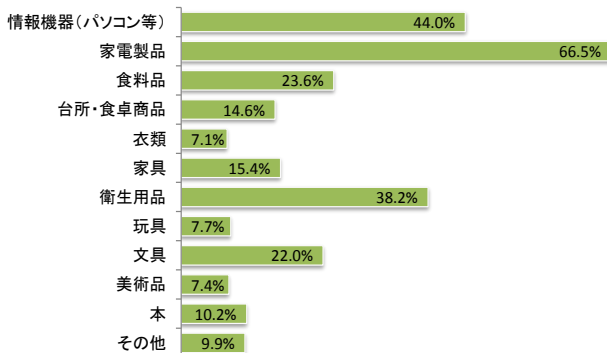


物品寄附品の希望 (複数回答)

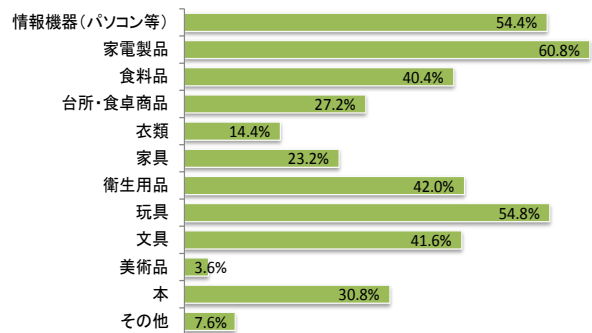


<施設種別ごとの物品寄附品の希望 (複数回答)>

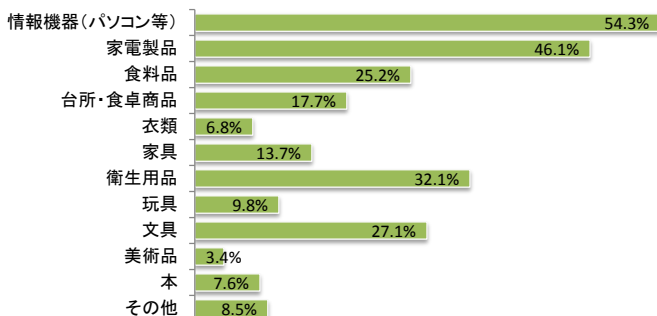
【高齢関連施設】物品寄附品の希望 (複数回答)



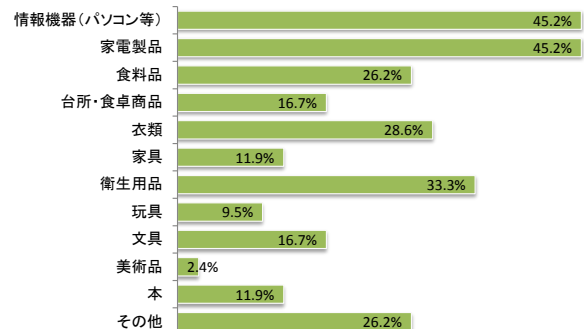
【児童関連施設】物品寄附品の希望 (複数回答)



【障害関連施設】物品寄附品の希望 (複数回答)



【その他施設】物品寄附の希望 (複数回答)



3 招待寄附の希望状況

▶ 招待の寄附(配分)希望は、施設種別では障害関連施設、児童関連施設からの希望が多くなっています。利用者の状況や、付添等の職員体制等によって、また、施設種別によって希望の多寡があります。

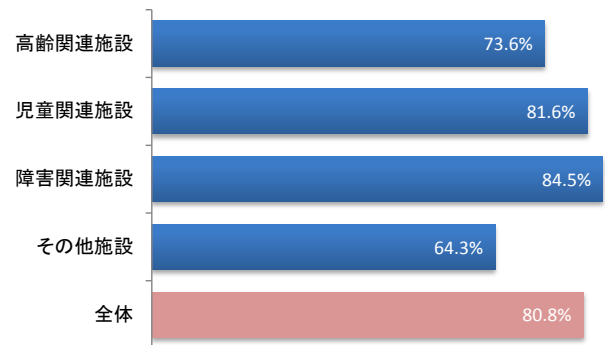
▶ 希望分野ごとでは、全体では、野球・サッカー等のスポーツ観戦、サーカス鑑賞が多く、演劇鑑賞や音楽鑑賞の希望が続きます。

その他、参加にあたって、車いす等の対応を希望する施設、職員の付添等の関係で曜日や時間帯の希望も寄せられています。

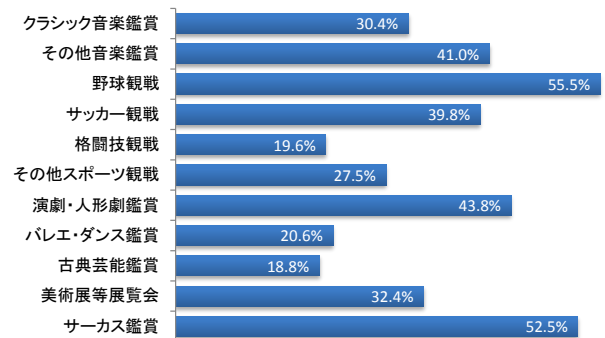
▶ 施設種別ごとの希望をみると、児童関連施設ではサーカスや演劇、人形劇、高齢関連施設では古典芸能鑑賞への希望が他の種別に比べ多くなっています。

▶ 東京善意銀行では、招待寄附をいただく招待数や、寄附いただく企業等の意向、イベント・催物等によって、希望する施設種別に公平にお渡しできるよう、丁寧な調整を心掛けています。

施設種別ごとの招待寄附希望（回答施設のうち）

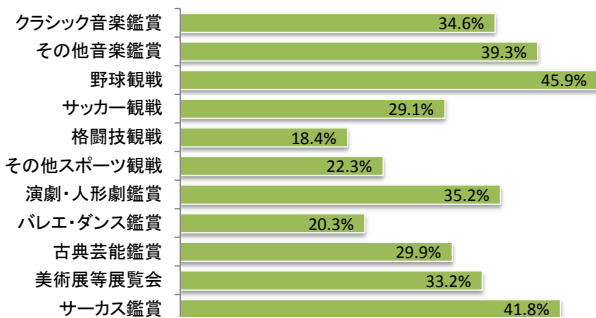


招待寄附の希望分野（複数回答）

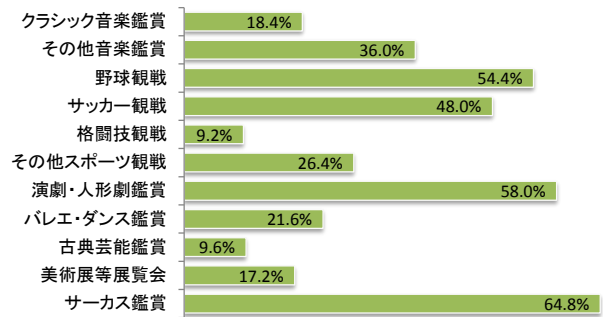


<施設種別ごとの招待寄附品の希望（複数回答）>

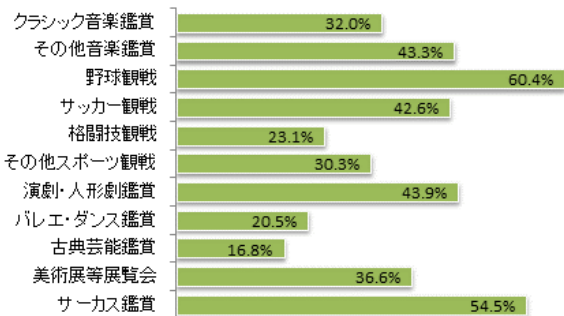
【高齢関連施設】招待寄附の希望分野（複数回答）



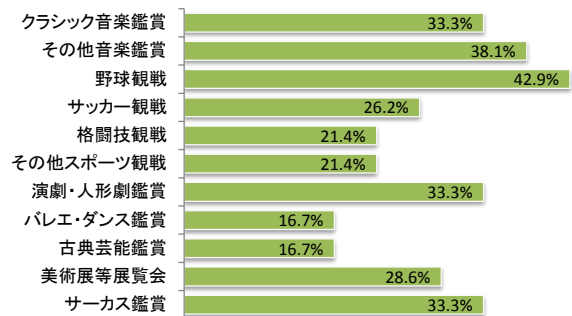
【児童関連施設】招待寄附の希望分野（複数回答）



【障害関連施設】招待寄附の希望分野（複数回答）



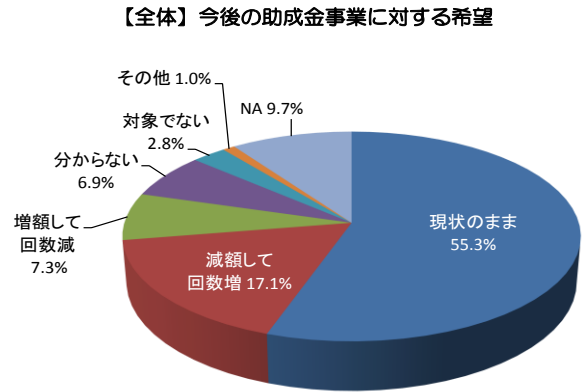
【その他施設】招待寄附の希望分野（複数回答）



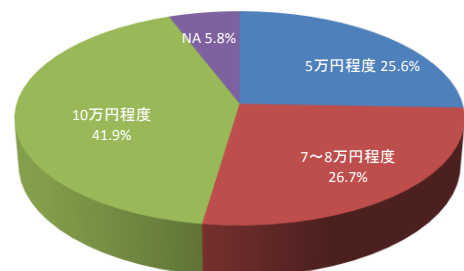
今後の助成金事業に対する希望状況

半数を超える福祉施設が現状のままの助成額を希望

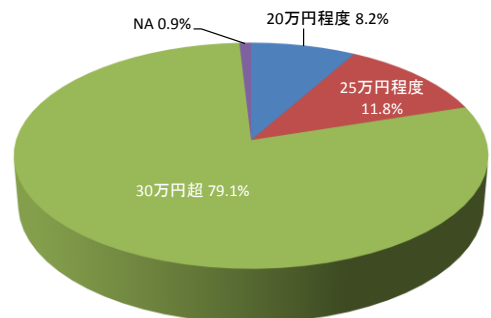
- ▶東京善意銀行では、都民・企業・団体の皆様からいただいた現金による寄附を、福祉施設が必要とする物品の購入費用のための助成金として、1施設につき1回あたり15万円を上限に配分する助成事業を行っています。
- ▶平成28年度の寄附等希望アンケートにおいて、各施設における東京善意銀行の今後の助成金事業への希望を確認しました。
- ▶助成事業の1回あたりの助成金額、助成金の配分回数について、「現状のままでよい」と回答した施設が55.3%と多く、「助成上限額を減額して配分回数を増やしてほしい」が17.1%となっています。一方で、「配分回数を減らして助成上限額を増額してほしい」とする意見も7.3%あります。



【全体】減額した場合の助成希望額(配分希望施設のうち)



【全体】増額した場合の助成希望額(配分希望施設のうち)



- ▶「減額して配分回数を増やしてほしい」と回答した施設の助成希望額をみると、「10万円程度」が4割超となっています。
- ▶主な理由として、「多くの施設で助成を受ける機会があるといい」、「利用者の状態やニーズの変化に対応するため、配分回数が増えるといい」、「買い替えの必要な物品の購入価格帯」、「介護用品や生活用品等の使用頻度が高く、消耗しやすいため」といった意見があります。

- ▶「配分回数を減らしても助成上限額を増やしてほしい」と回答した施設の助成希望額は、「30万円超」との回答が8割程度を占めています。

- ▶主な理由として、「日常では高額な物品を購入するのが難しいため」や「購入希望品の選択肢が広がるため」といった意見があります。

介護ベッドや福祉用具等の福祉医療機器、大型家電製品や作業用備品、自動車といった物品の購入を希望する施設では、1回あたりの助成金額を高く希望する傾向が見られます。

東京善意銀行が行う事業や寄附の橋渡しへの意見・要望

- ▶東京善意銀行が行う助成事業、物品寄附や招待寄附の橋渡しについて尋ねたところ、これまでどおり企業等からの寄附の橋渡しをしてほしいといった意見が多くありました。
- 《助成事業》 ▶助成金で遊具を購入したが、新しい遊具で子どもたちが嬉しそうに遊んでいる姿をみて感謝している ▶助成金で購入した家電が毎日の調理や自主生産品を作ることに大いに役立っている ▶授産活動の活性化になるような助成があるといい ▶利用者の宿泊行事等への助成があるといい
- 《物品寄附》 ▶各施設に関してニーズに応じたマッチングを図っていただき感謝している。車の寄贈がもう少しあるとありがたい ▶利用者の状況により招待への参加が難しいため、物品寄附がありがたい ▶利用者が一人暮らしをはじめると必要な物品等があればとても助かる ▶衣類の場合、同じものを大量より、サイズやデザインが違うものを少量ずついただけると使い易い ▶日用品の寄附が定期的にほしい ▶寄附いただいたものをイベントの参加賞等で利用者に配っている。保護者にも喜ばれている
- 《招待寄附》 ▶大相撲の観戦があると嬉しい ▶野球観戦のチケットは、職員にとっては子どもと関わる機会のひとつでもあり、子どもにとっては貴重な外出の機会であり、双方にとって感謝している ▶利用者の経験の拡大や余暇支援、生活の楽しみとして活用でき助かっている。曜日や時間帯により利用が難しい場合もあるが、今後も継続して情報発信をお願いしたい ▶重度の障害や高齢化等により利用者の移動が困難な施設に対し、慰問のような形の催しの幹旋があればなおありがたい ▶家にこもりがちになっている方々にとっては、スポーツ観戦や音楽鑑賞など外に出るきっかけになり、貴重な支援の機会になっている ▶職員のみでも参加できる招待を増やしていただき、職員のリフレッシュにつなげたい ▶ガイドヘルパーの提供(協力)もあるとありがたい ▶招待に参加後、話題に事欠かないくらい喜ばれた方々を見て、思い出を寄附くださっているように思う
- 《その他》 ▶企業の社員の方の専門性を生かしたボランティア活動(プロボノ)を橋渡ししていただけるところがあるといい

〈事業実績〉

平成28年度実績 (12月末時点)	寄 附 受 入		配分か所数	備 考
現金寄附	674 件	19,330 千円	112 施設	※物品購入の助成金等として配分
物品寄附	144 件	17万8千点	962 施設	
招待寄附	140 件	1万2千人	3,401 施設	

 東京善意銀行のウェブサイトにも、様々な資料を掲載しています。ぜひご覧ください。



社会福祉法人 東京都社会福祉協議会(福祉振興部)

東京善意銀行

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-8-11 東京YWCA会館3階
Tel 03-5283-6890 Fax 03-5283-6997 E-mail zen-i@tcs.w.tvac.or.jp
<http://www.tcs.w.tvac.or.jp/zengin>